

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490300193		
法人名	医療法人 誠雅会		
事業所名	グループホーム さつき		
所在地	中津市三光土田 1242-1		
自己評価作成日	令和3年12月26日	評価結果市町村受理日	令和4年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおい		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和4年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員と入居者の皆さんが普段の生活の中でたくさん会話し冗談を言い合いお互いに笑う事により信頼関係や安心感を感じていただけるように日々取り組んでいます。本人や家族など一人ひとりの思いや意向を大切にしその人らしい暮らしを支援しています。施設の畑では野菜や花を栽培しており散歩の途中に生育具合を確認していただいたり収穫の時期になると一緒に収穫したりと季節感を肌で感じていただくようにしています。また新型コロナ対策を徹底し密にならないように工夫した外出支援を心掛け気分転換を図るようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・コロナ禍にも関わらず、日常的に外出支援が出来ている。
- ・職員と利用者が仲良く会話を交わし、笑顔が絶えない。
- ・菜園があり、四季折々の野菜を植え、みんなで収穫をし、おやつや食事の材料となり、楽しみの一つとなっている。
- ・法人内の医療機関や、施設との連携ができていて、家族や利用者の安心となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者本位の理念の下、入居者の皆さんの日常生活を支援している。普段の何気ない声かけや対応が職員本意になっていないかどうか職員同士でお互いに気にかけるようにしている。	理念は事務所やエレベーター横に掲示し、常に利用者本位に考え、日々のケアをしている。気持ちに余裕のないときなどはお互いに声を掛け合い、理念を振り返ることにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は運動会や祭りなど地域の行事に積極的に参加していた、コロナ禍で地域の行事が全て中止となったが散歩の途中で地域の方と挨拶を交わしたり果物をもらったりとできる範囲で地域の方と交流している。	コロナ禍で行事は出来ないが、区長とは連絡を取り合いつながりが途切れないようにしている。散歩中に地域の人と出会えば会話を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会の会合では認知症への理解や接し方などを年に数回講義している。現在はコロナ禍でオレンジカフェには参加できていないが感染状況をみながら参加する予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの感染が拡大している時も運営推進会議は委員の意見聴取により開催していた、現在は通常通り2か月に1度開催している。会議メンバーとは率直に意見交換してサービスの向上に生かすようにしている。	コロナ禍の中、書面での会議であったが、11月は開催でき、コロナの安全対策や、オレンジカフェ開催などの意見が出た。また家族からは激励の言葉を受け、励みになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者とは様々な施設の課題や問題点などを電話や会議により相談しアドバイスをもらっている。会議は全てWEB会議になったが会議のサポートを依頼するなど協力関係が築けている。	ウェブでのグループホーム連絡会などで連絡は密に取れている。また、コロナに関してもその都度県外からきている職員に対しても抗原検査は可能かなどの問い合わせをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会を実施し身体拘束の内容とその弊害を職員全員で認識するようにしている。家族から安全の為に拘束など要望があった場合はその弊害を説明し事業所の工夫や取り組み方針を説明している。	常に研修を行い職員全員が認識している。家族からベッド柵設置の要望があったが、身体拘束にあたることをきちんと説明し、理解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は定期的な研修会により高齢者虐待防止関連法の理解を図り潜在する職員による虐待の防止に努めている。また虐待が見過ごされる事がないように普段から注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修会に定期的に参加し日常生活自立支援事業や成年後見制度を学んでいる。個々の必要性を関係者と話し合い必要と考えられる入居者が活用できるような体制作りに努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、料金の改定などの際は契約内容に不安や疑問が生じていないか個々の立場に立って確認し必要性や改定の理由などを説明し納得を得た上で手続きを進めていくなど個別に配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際には家族に生活状況を説明し家族の意見や要望を聞くようにしている。言う事をためらう家族などの心情を察しより多くの意見や要望を出してもらえるようにも配慮している。	面会時に家族とは多くの話をしたり聞いたりするようにしている。また、言えないようなときは表情で察し、判断している。遠方の家族には毎月便りを出し、様子を知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は運営に関して入居者の状況や実情を詳しく知る現場の職員の意見や要望、提案を聞く機会を設け意見交換を行うなど職員の働く意欲の向上や質の確保につながるようにしている。	月2回のスタッフ運営会議で要望や意見を聞くようにしている。当日の有給休暇も、要望により認められるようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は管理者や職員の日頃の努力や具体的な実績、勤務状況などを把握し給与水準や労働時間、やりがいなど職員が向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員育成の重要性を認識し全ての職員が質を向上させていけるよう学びの機会を計画的に確保しており介護福祉士の資格所得に対しては奨学金制度も導入している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会ではコロナ禍で職員の事業所見学や合同研修会は中止となっているが管理者は定期的にWEB会議を行っており管理者同士の日頃の悩みの解消や情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談から利用に至るまでは自宅への訪問や実際に施設見学に来ていただき生活する上での不安や困っている事、要望など本人の気持ちに耳を傾けながら安心を確保する為の関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談する家族の不安や悩み、要望にしっかりと耳を傾けるようにしている。家族同士の中での違いも含めて家族の体験や思いを理解しながら話をしっかりと受け止めるなど安心できるような関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人や家族の実情や要望をもとにその時点で何が必要かを見極めるようにしている。必要に応じて他のサービス利用を調整するなど徐々に馴染み安心しながら利用できるよう工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者を介護される一方の立場におかないように十分に注意している。一緒に過ごし喜怒哀楽を共にする事で孤独に陥りがちな利用者の安心感を生み出すように配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら本人の日々の暮らしの出来事や気付いた事など情報共有している。本人と一緒に支えていく為に家族と同じような思いで支援している事を伝えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院や商店を入居後も継続して利用する事など本人がこれまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握し家族にも協力を依頼して今までの関係を断ち切らないようにしている。	コロナ禍で訪ねてくる人は少なくなったが、年賀状や電話でこれまでの関係が断ち切れないうち支援している。なじみの理容師が定期的に訪問してくれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段から入居者同士の間人間関係を職員が把握、共有するようにしている。一人ひとりが孤立せずに入居者同士がお互いに助け合い支え合って暮らしていけるような支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移り住む先の関係者には本人の状況や習慣、ケアの工夫など詳細な情報提供を心掛けている。サービスの利用が終了した後も相談や支援に応じ本人の経過を見守るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から入居者一人ひとりの思いや暮らしの意向の把握に努めている。認知症により意思表示が困難な方に対しては職員は本人の視点に立ち意見を出し合い話し合うようにしている。	職員と利用者の信頼関係を築いていくことで心を開いてくれる。会話が困難な人には、表情の変化やいつもと違うところを見つけ判断している。個人ファイルには一人ひとりの生活歴を詳しく記載し、誰でもその人がわかるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	有する力を発揮しながら自分らしく暮らす事を支援する為にも本人や家族との馴染みの関係を築きプライバシーに配慮しながら生活歴や馴染みの暮らし方、サービス利用の経緯などを把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は入居者一人ひとりの暮らしの流れに沿って本人の状態を総合的に把握するようにしている。また日々の暮らしの中で見落されやすい本人のできる力・わかる力を発見できるようにも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は入居者がより良く暮らす為の課題について気付きや意見を出し合い、話し合った結果をもとに作成している。アセスメントとモニタリングを繰り返しながら設定期間ごとの見直しを行っている。	面会時に家族の意見を聞き、カンファレンスを行い、モニタリングを繰り返しながら見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫など個人別に記録して職員間で情報共有している。日々の記録を根拠にしながら介護計画の見直しに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の変化する状況や要望などその時々生まれるニーズに対応して多様な支援ができるように準備している。柔軟な対応を臨機応変に展開していく事で事業所に多機能化につながるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が心身の力をできるだけ発揮しながら安全でより豊かな暮らしを楽しめるよう地域包括支援センターや民生委員、ボランティアや警察、消防など多様な地域資源と協働できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後は現在のかかりつけ医を継続するのか協力医療機関などの医師をかかりつけ医にするのか本人や家族の状況や希望に応じて選択していただき適切な医療を受けられるように支援している。	見学時にそのままの主治医を継続するかどうかを話し合っている。基本的には受診は家族が行うが、必要に応じて職員が付き添うこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は高齢で認知症を有する入居者との日常の関わりの中で早い段階で状態変化や異常に気づき職場内の看護職、法人内の協力医院の看護師や医師と連携し健康管理や適切な医療支援につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は本人に関する情報の提供や入院後のケアに対する話し合いを家族や医療機関の関係者で行うようにしている。定期的な面会により病状を把握し早期に退院できるように病院関係者との情報交換にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について早い段階から本人や家族と話し合いを行い事業所ができる事を十分に説明している。また段階ごとに家族やかかりつけ医などケア関係者と意向を確認しながら対応方針の共有を図っている。	ADLが低下してきた時点で本人や家族と話し合い、グループホームで出来ること出来ないことの説明をしている。家族や本人が安心できるよう法人内の施設に住み替えも提案している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の身体状態の急変や事故発生時にも慌てず確実かつ適切な行動が取れるように定期的に消防署の協力を得て応急手当や初期対応、AEDの操作方法や蘇生術の研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て法人全体で昼間、夜間想定での避難訓練を実施している。災害時の具体的な避難策を検討し同一敷地内の事業所からの協力が実際に得られ慌てず確実な避難誘導ができるよう備えている。	年2回昼、夜間想定での避難訓練をしている。自然災害時は法人内の施設が福祉避難所となっており、実際に地域の人が3、4人避難してきたことがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りを尊重しプライバシーの確保を徹底する事は入居者の尊厳と権利を守る為の基本であり普段から声かけの仕方や対応に十分に配慮しさりげないケアを心掛けている。	入室時のノックなどプライバシーに関しては配慮している。入浴時やトイレ時には危険回避のためカーテンを少し開け、さりげなく見守っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活では複数の選択肢を提供し埋もれてしまいがちな本人が決める力を意図的に引き出すようにしている。意思表示ができない方は表情や反応を注意深くキャッチし本人の希望を把握するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合やスケジュールを優先するのではなく入居者一人ひとりが本来持っているペースや望んでいるペースに合わせた暮らしの支援ができるよう1日の過ごし方を柔軟に変えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの個性や希望、生活歴などに応じて髪型や服装などの身だしなみやおしゃれを個別に支援するようにしている。本人のこだわりの継続の為に馴染みの理美容院の利用なども希望に応じて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事が楽しみな物になるように一人ひとりの好みや力を活かしながら食事の配膳や盛り付け、食事の後片付けも含めて食事一連の作業を入居者とともに職員が行うようにしている。	月1回の給食会議で利用者の好みや食べたいものを検討している。おやつ作りは楽しみの一つであり、最近梅が枝餅を作った。朝夕のみ職員と一緒に食べる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は外食産業の栄養士が立てた献立を提供している、食べ物や飲み物の好みや摂取状況を把握し毎月の給食会議では食事に対する入居者の好みや意見、要望などを話し合っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは見守りや最終確認、義歯の洗浄や装着介助、ブラッシングやうがいなど一人ひとりの口腔状態や本人の有する力に応じた支援を心掛けるなど口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は入居者一人ひとりの排泄パターンや習慣、ズボンの上げ下ろしやパット交換、陰部清拭など必要な支援の把握、さりげない声かけやケアに努めるなど気持ちよくトイレで排泄できるよう配慮している。	排泄パターンを把握し、昼間はほとんどの人が日中はトイレでの排泄が出来ている。夜間も睡眠を妨げないよう見守りを行いながら支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に対しては朝食に牛乳やヨーグルトの提供、ティータイムは嗜好品を用いて十分な水分補給に努めている。毎日の体操や運動を声かけ、トイレでの腹部マッサージなどなるべく薬に頼らず自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴する事によって生まれる羞恥心や恐怖心を職員は十分に理解し入浴を無理強いする事なく一人ひとりの希望やタイミングに合わせてつろいだ気分で入浴できるように支援している。	入浴は週2回から3回朝から夕方まで、希望する時間に入浴できるよう支援している。拒否する人も声掛けの仕方やタイミングを見計らって、入浴が可能となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中にはできるだけ活動的な生活を支援する事で夜間の安眠につなげるようにしているが日課にとらわれず生活習慣やその時々状況に応じて休息するなど安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬の効能や副作用など詳細な情報を個人別にファイルして職員が常に把握できるようにしている。また服薬マニュアルを活用ながら服薬介助を行うなど薬の飲み忘れや誤薬の防止にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や趣味活動など一人ひとりに合った役割や楽しみ、気分転換を支援するようにしている。生活歴やできる力を活かしながら日々の暮らしが楽しみや張り合いのあるものになるよう働きかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者一人ひとりの希望や興味に沿った外出支援を心掛けており本人が戸外で気持ちよく生き生きと過ごせるようにしている。普段は行けないような場所でも本人の希望を把握し家族と協力して出かけられるようにも支援している。	コロナ禍でありながらも、日常的に散歩は出来ている。初もうでや、花見や紅葉も人出の少ない平日に出かけることが出来ている。家族の協力でお墓参りに出かけた人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に家族より金銭を預り事業所で管理しているが家族と相談し合意を得た上で使わなくても自分で金銭を所持し安心感を得たり自販機などで買い物をする事で楽しんでいただけるようにも支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて家族や友人へ電話の支援を行っている。通話中はプライバシーに配慮して遠目からさりげなく見守りしている。一人ひとりの有する力に応じて暑中見舞いや年賀状の支援も行うようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間には居心地よく過ごせるように家庭で使用している家具を配置している。壁には行事の写真や季節感を感じていただけるような飾り付けを行うなど生活感や季節感を取り入れ暖かい雰囲気になるように配慮している。	リビングにはみんなで制作した干支のトラの壁掛けが飾られており、各テーブルでは気の合う人同士で座り、にこやかに話している。夕方不穏になった人も、その人たちの輪に入り穏やかに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少人数であっても集団生活の中で不安やストレスを感じないよう独りになれたり気の合った仲間同士でゆっくりと過ごしていただけるようにホールや廊下にはソファや椅子を設置するなど配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者一人ひとり居室については家族とも相談して自宅にある昔ながらの本人の使い慣れた馴染みの物を置いたり写真を飾ったりと本人が居心地よく生活できるように工夫している。	それぞれの居室には家族と相談の上、使い慣れたこたつや、たんす、テレビ、ラジオ、パイハンガーが置かれ、ベッドの横には化粧品を置くなど工夫をし、くつろげる居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体状況に合わせて起立バーの設置やナースコールの延長、P-トイレの設置位置など入居者の認識間違いや判断ミスを最小限にするように環境整備に努めている。		